

港南造形タイムズ

第31号

高校生アートライター大賞を連覇

本校2年生の川久保美桜さんが、筑波大学が主催する第4回高校生アートライター大賞（ビエンナーレで開催）で大賞を、3年生の津波百合菜さんが優秀賞を受賞しました。また、港南造形高校として学校賞を受賞しました。

高校生アートライター大賞は、アートと自分のかかわりをエッセイにして応募するもので、次の三つの部門があります。

- ◎ 制作体験 自分が作品をつくった体験をもとに書く
- ◎ 作品探究 アーティストがつくった作品について書く
- ◎ 芸術支援 アートと人々の交流について書く

今回の応募総数は491点で、各部門1名の大賞と3部門合わせて19名の優秀賞が選ばれました。また、7校に学校賞が贈られました。

今後も、生徒の皆さんが作品制作に加え、造形教養の分野でも全国に発信してくれることを期待しています。

1月28日に筑波大学で表彰式が開催されます。

イタリア研修旅行 おかえりなさい!



1月5日に関西国際航空からイタリアに向けて出発した研修旅行団36名（生徒33名、教員3名）が12日に元気に帰国しました。

訪問地のローマ、フィレンツェ、サン・ジミニャーノは、作品も、建物も、人までもが名作を生み出し、継承し、さらに新たな作品を生み出す環境となっている街です。その環境のもとで過ごす一週間という時間は、美術造形の原体験ともなりえる時間です。



個人旅行や旅行社のツアーでは行くことのない建物の見学、美術館での美術造形を専攻する生徒に合わせた濃密で高度な作品解説、イタリアのアニメーション作家を交えた国立美術学校での交流など、研修プログラムも港南造形高校イタリア研修旅行だからこそ経験できるものです。

帰国翌日に生徒に感想を聞いたところ、「ローマ時代の作品や遺跡が美しい状態で残っていて、国が文化を大切にしていると感じた。」「日本の美術展ではありえない近さで作品を見ることができ、作品の細部までも見ることができたのは得難い経験だった。」「体験したことがあまりに凄くてまだ多くのことが自分のなかで整理できていない。家に帰ってからイタリアで気になったことを調べている。」と目を輝かせてと話をしてくれました。

この研修は港南造形高校後援会のご支援を得て府立港南造形高校国際交流推進会とともに実施したものです。ここに感謝の意を表します。



献血キャンペーンで似顔絵を提供

<12月20日 18:10~ NHK総合 ニューステラス関西 放送>
<12月21日 毎日新聞朝刊 掲載>



12月20日(火)14時から「御堂筋献血ルームクロスカフェ」と「まいどなんば献血ルーム」の二か所で本校生23名が献血の呼びかけと献血者への似顔絵提供を行いました。

この取組みは平成22年9月に大阪府健康医療部薬務課から「熱血献血キャンペーン」のポスターコンクールへの出品の打診を受けた際に、ポスター制作だけでなく、大阪府の献血の現状やその意義を学ぶ講演会(放課後)や、講演会を聞いた上で希望者によるボランティア活動(校外活動)等を行うなど、「美術やデザインが社会とどのような関わりを持つのか」を実感できる取組みにできないかと提案して始めたものです。



本校の生徒は内省的なところがあり、じっくりと一人で制作に取り組むことは得意ですが、人と積極的に関わるこ



とは得意とはいえません。その生徒が、街頭キャンペーンでの呼びかけや似顔絵提供での献血者との談話を通して成長していきます。最初は街頭での呼びかけの声は小さく、似顔絵を描きながらの会話もぎこちないものですが、2時間という限られた時間にも関わらず、生徒は大きな声で呼びかけができるようになり、似顔絵を描きながら笑顔で話ができるようになっていきます。好きで得意な美術造形と社会をつなぐ体験をとおして生徒が成長する機会として、今後もこの取組

みを続けたいと思っています。

また、「熱血献血キャンペーン」の一環として実施されたポスターコンクールで2年生の大西京香さん、村上あすかさん、中村香奈子さんの3名が入賞しました。

冬場は献血が不足する時期と聞いています。来年は、本校だけでなく美術造形が好きな生徒が幅広く参加してくれるようにできたらいいなと薬務課の担当者の方とも話をしています。

全国高等学校デザイン選手権で入選

全国高等学校デザイン選手権大会、通称『デザセン』において、本校生徒3名（屋良優奈さん、松田まりあさん、小谷かりんさん／3年生）による1チームが入選を果たしました。

『全国高等学校デザイン選手権／デザセン』は東北芸術工科大学が主催するコンテストです。大会趣旨の「社会を良くする」ための提案募集に対し全国から参加した高校生、2～3人が1チームとなって具体的な企画を提案、その内容が審査されます。一次審査は企画書での応募で、それを通過したチームは二次審査に向けA2サイズのパネル2枚にコンセプトをまとめて提出します。その後審査の結果入賞12チーム、入選30チームが選出されます。

『デザセンで』は、「デザインは社会や日々の暮らし、または様々な仕事のなかで、問題や課題を発見し、解決策を具体的に提案していく一連の行為であり、社会全体、すべての人に関係すること」と位置づけています。言い換えれば、物事をしっかり観察すること、そこから問題を見つけること、問題の解決策を考えること、解決策を人に分かりやすく伝えるために工夫をすることなど、表現に行き着くま



でのプロセスにこそデザインの本質があるととらえています。

今回、本校生徒による提案は『仲直りの日』。「ありがとう」といえる記念日はあるのに「ごめんなさい」といえる記念日はない、という発想をもとにした提案です。加えてメールなどのデジタルデータでの気持ちのやり取りではなく直筆の手紙での気持ちの伝達が大切であることも盛り込んだ内容になっています。具体的な提案内容は、各月の31日は『仲直りの日』とすること。その日には郵便局をはじめ、さまざまな店舗に専用の投函ポストが現れ、そこに謝りたい人に向けて手紙を投函すると、全てを水に流して仲直りがしたいという意思表示になるという設定です。専用のポストはトイレ型で、これはトラブルの内容を「水に流してね」という願いの象徴となっています。

今回『デザセン』については本校として初チャレンジでした。しかし前述の提案内容が評価され全国から集まった総勢932チームから入選30チームに選ばれました。残念ながら入賞12チームには入れませんでしたが入賞入選を通して大阪府からは唯一の受賞チーム・学校ということで喜ばしい結果となりました。